

今月の題字



熊野中学校2年 森島 愛さん

くまの

熊野中学校2年 福岡 麻菜さん



【評】この作品は、あじさいの花をモチーフに和菓子デザインし、粘土で制作した作品です。静かに降る雨にぬれ、色を深めたあじさいをよく工夫して表現し、夏にぴったりの完成度の高い作品です。

熊野中学校2年 井原 紗菜さん



【評】左払いと右払いがとも伸びやかな作品です。つながりに迷いがなく、切れ味のある線で勢いを感じます。

熊野の自然 (383)
アブラゼミ (セミ科)



油蟬は日本各地で7〜9月頃に出現。ジージーと鳴く大型種です。透明な翅のセミが多く、褐色の翅のアブラゼミは直ぐ分かります。枯れ枝などに産み付けられた卵は白色で、長さ約2.2mm、直径約0.5mm。翌年孵化した幼虫は土中にもぐり、木の根の汁を吸って育ちます。幼虫の期間は約6年です。成熟した終齢幼虫は地上に出て、幹や枝などに足の爪を突きたて体を固定します。胸部背面が縦に裂け体が抜け出すと、小さく縮んでいた白い翅が伸びます。翅が硬くなる前に物に当たると、翅は正常に伸びず飛ぶことはできません。幼虫は翅を広げても大丈夫な所を選んで羽化します。夜に

羽化するのも、敵が少なく、昼間より安全だからです。セミで鳴くのは雄だけです。雄には腹部に発音器があり、大きな声が出せます。仲間にも合図して集まったり、雌を呼んだりしています。雌の腹部の先端は縦に溝があり、雄は溝がありません。抜け殻も似た形です。抜け殻から種類も分かります。触角も重要な区別点です。アブラゼミの抜け殻は、大きく褐色で光沢があります。触角は毛が多く、体に近い方から3節目が一番長いのが特徴です。県内で14種。町内では7種記録がありますが、小型のチツチゼミを追加します。

【写真・文】

緑花文化士 富沢由美子

筆の駅ミニギャラリー

●西村富美雄と仲間たち

(水彩・油絵展)

時 8月19日(木)〜31日(火)

熊野町在住の西村富美雄さんは、全国書画展の画の部をお世話され、くまのみらい交流館などでは、地域文化振興のため絵画教室を開催。その仲間たちと作品発表展示致します。



●なお、8月1日(日)〜11日(水)まで引き続き國雪写真展「雅羅写」を継続しています。

熊野町観光案内所「筆の駅」

熊野町出来庭10・6・24

☎855・1123(いいふみ)

開10時〜16時

(各展示の最終日は15時閉場)

休水曜日・第3日曜日

※無料

※ギャラリーのご利用については、お問い合わせください。

熊野町公式アカウント

facebook

LINE

子育て支援情報アカウントこふでりん

LINE

熊野町観光大使ふでりん 公式アカウント

facebook

熊野町観光大使ふでりん (放送終了後24時間自動消法)

082-820-5640

防災無線放送再生ダイヤル



「広報くまの」は再生紙と、認定を受けた環境にやさしい環境対応型インキを使用しています。



分かりやすく、読みやすく、間違えにくいユニバーサルデザイン書体を使用しています。

